

西脇市連合区長会との課題懇談会報告書

- 開催日時 令和8年4月27日 13:30～15:05
- 開催場所 西脇市役所 委員会室
- 出席者 <西脇市連合区長会>
各地区区長会長 8人
前地区区長会長 2人
<正副議長>
村岡 栄紀 議長、岸本 年裕 副議長
<議会運営委員会>
林 晴信 委員長、杉本 佳隆 副委員長、
藤原 秀樹 委員、高瀬 弘行 委員、
吉井 敏恭 委員、寺北 建樹 委員

1 懇談の趣旨

令和8年2月26日付けで西脇市連合区長会から「西脇市議会の適正な議員定数の検討に関する申入書」が提出されたことを受け、正副議長及び議会運営委員会が、各地区の代表である連合区長会（新旧役員）の皆様と率直な意見交換を行う場を設けた。

本懇談会では、人口減少や近隣他市の動向を踏まえた各地区の議員定数に対する御意見を伺い、今後の議員定数の在り方や議会の役割についての協議を行い、議会としての今後の検討方針を共有することを目的に実施した。

2 連合区長会長からの説明

- ・近隣他市において、議員定数を16人から14人へ削減する動きが報道され、連合区長会内で議論が生じた。
- ・今後の人口減少（4年後には35,000人を下回る予測）を見据え、議会として定数について一度立ち止まって検討してほしいというのが申し入れの趣旨。削減ありきではないが、仮に16人を維持するなら、市民が納得できる明確な根拠を示してほしい。

3 各地区区長会長等からの主な発言

< A地区 >

- ・人口の少ない当地区から議員が出なくなる恐れがあるため、定数削減には反対
- ・人口で議員定数を決めてはいけない。
- ・町内会長への事前の意向確認では定数削減賛成が多数だった。
- ・地域の課題解決に尽力する議員の存在や活動は高く評価している。

< B地区 >

- ・地区内の区長の意見としては「人口減少に伴う定数減」が過半数であった。実際に定数等の方向性を決める際は、改めて住民の意向を確認する必要がある。

< C地区 >

- ・地区内の区長の意見は「現状維持（7人）」と「定数減（6人）」に分かれている。過去の定数検討の経緯を知らない方もあり、地区全体の意見は分からない。

<D地区>

- ・近隣市との比較や過去の議員欠員時に議会が機能していたことから判断し、区長全員が「定数削減の方向で検討すべき」と回答

<E地区>

- ・地区内の役員の意向確認では、「近隣他市に合わせるべき」「少数精鋭」といった視点から定数見直し（減）の意見が多数

<F地区>

- ・議員定数は議会自らが主体となって決めるべき事柄である。今回の選挙で当地区から4人が立候補し、当選者が1人にとどまったことについて、地区内では関心が高い。

<G地区>

- ・時間的制約により少数の意見集約にとどまったが、人口減少を理由とする削減意見があった。一方で、市内で最も人口の少ない地区としては、定数が減ると地元から当選しづらくなるという懸念もある。

<H地区>

- ・他市との比較や財政面からの適正化（減）を求める声が多いが、市民サービスの低下を招かないよう慎重にすべきとの意見もある。定数の議論は、削減ありきでも現状維持ありきでもなく、「議会が市民のために最大限機能するための適正規模を考える場」にすることが大事。透明性あるオープンな形で検討してほしい。

4 議会側（各委員等）からの主な意見

<議 員>

- ・現在の市議会は、若い世代を含め幅広い年代から構成されており、多様性が確保されている。定数を削減すれば地区の代表が不在になるリスクや行政への監視機能低下の懸念があり、また、選挙のハードルが高くなることから、多様性の確保が難しくなる。現状維持が良いと考える。

<議 員>

- ・定数の検討は市民の負託を受けた議員の責務。区長業務の負担軽減などを議員が担う面もあり、単純な削減ではなく議会の役割を踏まえ慎重に検討すべきである。

<議 員>

- ・16人という定数は地域の代表性や多様性を確保する上で現状良い数字であり、削減するとせつかくの多様性が失われるおそれがある。議会報告会を通じ、市民の皆さんと共に考えていきたい。

<議 員>

- ・議員の活動（拘束時間や業務量）が市民に十分に伝わっていないことに課題を感じる。実際の活動実態を踏まえると16人が適切であると考えており、市民に説明していきたい。

<議 員>

- ・選挙において「少数精鋭」という考え方は現実的ではない。議員のレベルは市民のレベルを反映するものである。

<議員>

- ・定数削減の議論は10～12年スパンですればいいのか。
- ・定数は「市民が何人代表を出したいか」という権利の問題であり、アンケートなどで安易に決めるべきではない。検討するならば、特別委員会を設置し、市民の意見をしっかり聞いた上で決めるプロセスが必要である。

<議員>

- ・地区代表として地域の声を聴く議員が減ることへの懸念もあり、現状維持か削減か、現時点では迷っている。

<議員>

- ・5月からの「議会と語ろう会」で市民の意見を聞きながら、必要に応じて特別委員会へシフトしていく方向で議会として検討していきたい。

5 意見交換会での主な意見

<D地区>

- ・連合区長会からの申入れは「削減ありき」ではなく、近隣市の動向や人口減少を踏まえた「検討の実施」を求めるものである。
- ・議員の活動実態が市民に見えにくいため、議員定数の妥当性が判断しづらいという声が市民の中にある。
- ・連合区長会の中でも意見が分かれているため、議会運営のあり方も含めて議会内で協議し、市民に対する明確な説明責任（エビデンスの提示）を果たしてほしい。

<議員>

- ・平成30年に定数削減を議論した際、今後、市民から定数に関する意見が出ないよということ、しっかりと時間をかけ調査し、エビデンスを示した経緯がある。
- ・定数16人を維持するという理屈を作るための検討なら不要である。削減を求める提案があり、議論し、最終16人を維持するというなら意味がある。

<議員>

- ・全国的に見ると、人口4万人前後の都市では兵庫県、北播磨地域の議員数が特に少ないという現状がある。
- ・市民が「どのような議会を求めているのか」が明確にならない限り、定数に関して議論することは難しく、答えは出ない。

<E地区>

- ・議員には単なる地区代表ではなく市全体の代表としての活動を期待している。
- ・定数については感覚ではなく、定量的な根拠をオープンにしてほしい。

<H地区>

- ・定数削減が立候補のハードルを上げ、立候補者が減少するとは言い切れない。
- ・議会の見える化がキーワードであり、定数を含め議会運営の在り方について協議し、方向性を示していただくことが市民サービスにつながる。

6 今後の対応＜議会側＞

- ・5月からの「議会と語ろう会」で議員定数をテーマとして市民の意見を聴取する。
- ・その結果を踏まえ、必要に応じて「特別委員会」の設置を検討していくこととする。

7 振り返りにおける主な意見

令和8年5月26日に議会運営委員会を開催し、振り返りを行った。

主な意見は以下のとおり。

- ・連合区長会側への資料提供は行っているが、近隣市の削減理由や議会の活動実態について、更なる情報共有が必要である。
- ・議会基本条例上、議員は「市民全体の代表」であるが、地域住民の間では依然として「地域の代表」という意識が強く、議論がかみ合わない側面がある。
- ・「議会報告会」の現場では、定数削減を強く求める声がある一方で、関心が薄い、あるいは削減の必要性を感じていない市民も多く、テーブルごとに意見が分かれる実態を確認している。
- ・「人口減少＝定数削減」という短絡的な議論ではなく、二元代表制における議会の役割や、他市と比較した際の議員数の現状（兵庫県、特に北播磨地域は比較的少ない等）について、定量的なエビデンスを持って説明していく必要がある。